

17 . パターンの伝説 (タガログ)

スペインがフィリピン諸島に来る前、各地域は部族によって支配され、それぞれの部族は族長“ダツ”によって統治されていました。

「カパンパンガス」として知られていた部族は、戦いにおける勇敢さと、むごたらしさで有名でした。彼らの長は、ダツ ムンワで、貪欲な指導者。彼は自分の領土を増やしたいと思っていました。

そして運命の日、ダツ ムンワの軍隊は、タガログ部族の平和な領土を侵略しました。そこは、やさしく、慈悲深いダツ プリと呼ばれる指導者の治める地方でした。タガログ族は、農民と商人で、軍人はいませんし、戦争の準備はしていませんでした。

タガログ族は、厳しい戦いを善戦しましたが、すぐにダツ ムンワの無慈悲な戦闘的軍隊に破られました。

多くのタガログ族は、血なまぐさい戦いで死に、生き残ったわずかな者は、ダツ ムンワの地下牢に捕虜となって投げ入れられました。その中には、指導者のダツ プリも含まれていました。これらの捕虜の運命は、奴隷か死でした。

ダツ プリには、若く美しいマユミという娘がいました。彼女は、父と長い間囚われていました。悪いダツ ムンワは、彼女の美しさのために、すぐに好きになり、荒っぽく腕をつかみ、捕虜たちの中から引き出しました。「お前は美しい、マユミ。」とダツ ムンワは言いました。「お前と、取り引きをしよう。」

王女マユミは、言葉を出すことができませんでした。怖がったのもあるし、悪いダツ ムンワを嫌っていたのも理由でした。

「もし、お前が私と結婚するなら、」悪いムンワは、続けました。「お前の父も、他の捕虜も、殺さない、と約束しよう。ひざまずいて、私に忠誠を誓うなら。」

彼女は、父や他のタガログの囚われ人を助けたかったのですが、マユミは、ダツ ムンワを信用できませんでした。「私はあなたと結婚できません。フィリピンの神話と伝説 17 . パターンの伝説

ん。」と彼女は、震える声で、勇気を持って、答えました。

彼女の答えは、すぐにダツ ムンワを怒らせました。「わしに従えん、だと。」彼はうなり声をあげました。「どうして、私と結婚できないのだ？」

マユミは、恐れしました。しかし、心に正直に、「なぜなら、私も父も父の民も、あなたのような悪い、獣のような人に忠誠は誓えません。」と彼女は答えたのです。

ダツ ムンワは今や、本当に怒り、王女の顔を引っぱたきました。しかし、彼女は尻込みせず、恐れを表しませんでした。

ムンワは怒って、おののくマユミの前で、自分の顔を上げたり下ろしたりしました。「いいか、覚えておけ。今や、お前も、父の命も、お前の哀れな民の命も、完全に、私の支配下にあるんだぞ。」と彼は言いました。「お前のことは、私の思いのままだ。」

「しかし、あなたは私を結婚させられないわ。」勇敢にマユミは言いました。「なぜなら、私の心は、私の恋人マラカスにあります。そして、私は私の心を裏切ることはできません。」

激怒したダツ ムンワは、逆上して、赤い顔で、それをマユミに向けました。彼は、マユミの顔の前で、指を振りました。「新しい日の夜明け前、お前は私の妻になる。お前が望もうと、望むまいと。」ダツ ムンワは、彼が、彼らの結婚の準備をする間、護衛に命じて、王女を他の捕虜のいる地下牢に投げ入れました。暗闇の中、哀れな地下牢で、マユミは、父のダツ プリが死んだ、と聞いて、胸が張り裂ける思いになりました。何かひどいことが美しい娘に起こることを恐れて、彼は失意から体を衰弱させ、死んだのでした。

地下牢の中に、マユミの恋人、勇敢な若いマラカスがいました。彼は取り乱した王女を慰め、すぐにすべてのことは良くなる、と言うことで、彼女を安心させようとしていました。

マユミがマラカスに、悪いダツ ムンワが、次の日の夜明け前に、彼女と結婚しようとしていることを告げると、マラカスは、生き残りたければ、

大変急いで、彼らが何かしなければならぬことを知りました。

ふたりの恋人は、他の捕虜を呼んで、脱出計画を立てました。彼らは、彼らの名と部族を、ダツムンワの地下牢で死なせるわけにはいきませんでした。良い指導者ダツブリの死を無駄にしてはなりません。タガログ族は、脱出して、将来の世代に、新しい生活を始めさせなければなりません。

そして、夜遅く、マラカスとマユミは、残されたタガログの捕虜たちを反乱に向かわせ、彼らは、カパンパンガンの見張りを征服して、暗闇にまぎれて、地下牢から逃げました。

マラカス、マユミ、そして残ったタガログの部族の人々は、何日も、何晩も、野原を通り、山を越え、何を通り、森をぬけて歩き、ついに、たくさんの果物の木が育つ、肥沃な土地にたどり着きました。

マラカスとマユミは、この、平和で実りの多い土地を、彼らと、そして新しい未来の部族が、新しい村を形成する、理想の所としました。

スペイン人が、ついにフィリピンに来た時、彼らは、新しい部族の指導者に選ばれたマユミとマラカスの作った新しい村を通りかかりました。

スペイン人が、その幸せな部族の人々に、村の名前を聞いたら、彼らは「パターンです。」と答えました。その意味は、「若く、新しい。」です。この名前は、スペイン人と将来の世代の人々によって、この地域全体をそう呼ぶようになりました。